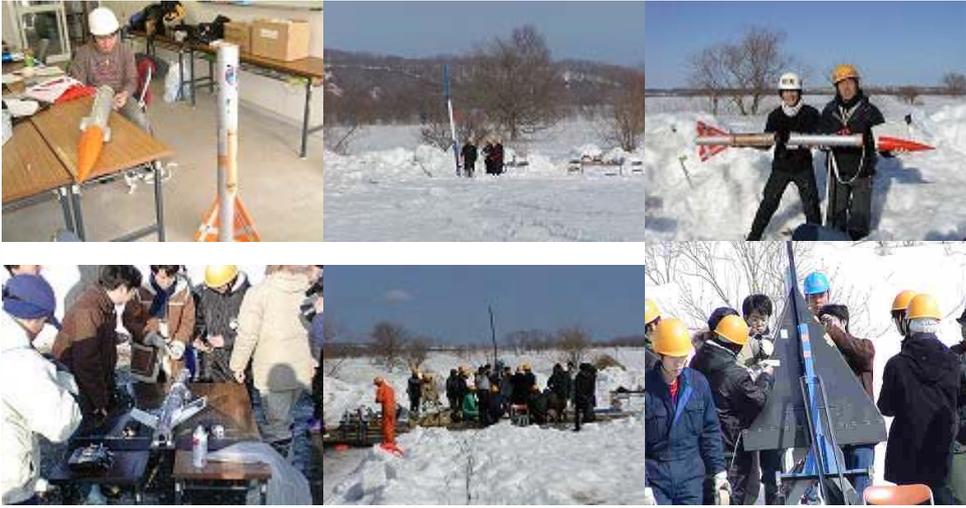




## 2003年度実験実績等



実験 期間	実施機関	実験内容
2004年 3月10日～ 3月15日	東海大学 北海道大学 北海道工業 大学他	<p>固体燃料と液体燃料を組み合わせ、新しいエンジンを搭載したハイブリッドロケットの打上げ実験が東海大学学生ロケットプロジェクトチームと北海道大学大学院、北海道工業大学の共同チームにより多目的航空公園周辺の原野で実施されました。</p>  <p>13日と15日に東海大学が、分離機構の異なる2機のハイブリッドロケットを打ち上げました。どちらも予定通り分離に成功、パラシュートが開き雪原に着地、回収しました。</p> <p>14日北海道大学と北海道工業大学の共同チームが三角形の翼をつけたCAMUIロケットを打ち上げました。過去2回の打上げに成功しているロケットに翼を付け、ラジコンで滑空させて目的地に着陸、回収するもので、完全回収型のロケット開発をめざしています。55度の角度に打ち上げられたロケットは、水平に滑空後旋回し着地、ほぼ無傷で回収されました。</p>
2004年 2月9日～2 月26日	IHIエアロスペース(株)	<p>回収実験機、落下回収実験</p> <p>ロケット型の全長3.4m重量260kgの回収実験機をヘリコプターで上空2kmから落下させ、内蔵のラムエアパラシュート（パラセール）により機体を制御して目的地点に着地するもの。数回のリハーサルを経て24日午後落下試験を実施、真っ赤なパラシュートが開き、安定した滑空の後着陸の衝撃を緩和するためエアバッグが開き、目的地点の雪原（原野）にゆっくり着地、見事成功貴重なデータが収集されました。今回の成功を受け、完全回収再使用のロケットシステム開発が進む</p>

		  <p>ことでしょう。</p>  
11月28日 ～12月12 日	宇宙航空研 究開発機構 (JAXA) 通信・放送 機構(TA O)	<p>多目的実証実験機(ミューパルアルファ)</p>   <p>を用いた、時分割データリンク確認試験、トンネル表示評価及び2004年に行われる飛行船滞空飛行試験に係る追跡管制システム実証試験(MuPAL-<math>\alpha</math>)に飛行船管制機器を搭載し地上設備との交信を確認)</p>
10月27日 ～11月9日	宇宙航空研 究開発機構 (JAXA)	<p>多目的実証実験機(ミューパルイプシロン)を用いて、ヘリコプタの飛行性能、特性を取得し、飛行シミュレータに反映させる試験など。</p> 
9月18日～ 9月27日	独立行政法 人航空宇宙 技術研究所 (NAL)	<p>航空機用ジェットエンジン(推力840キログラム)を用いた騒音計測を、多目的航空公園滑走路東端で実施しました。屋外でのジェットエンジンの騒音を測定分析し、騒音の発生、拡散防止に役立てることとしています。</p> 
9月1日～9 月12日	独立行政法 人航空宇宙 技術研究所 (NAL)	<p>空港の騒音軽減を図るため、ラジコンジェット機を用いた騒音測定を実施しました。この実験は、昨年に続き2回目で、前回使用の単発ジェット機に加え、今回は大型旅客機の16分の1スケール(長さ4メートル、幅3.8メートル、重量約40キログラム、双発ジェットエンジン)の機体を使用して、より実際に近</p>

		 <p>いエンジン音を再現して実験しました。 滑走路上に設置したマイクロフォンや各種センサーの上5—10メートルの高さを、時速150キロメートルで通過しデータを取得、持ち帰り騒音の発生源などを分析し、騒音軽減対策に役立てることとしています。</p>
8月8日～8月18日	トライククラブ空界	<p>ハングライダーにプロペラ動力機を搭載したウルトラライトプレーン「トライク」の愛好者たちが航空公園でフライト。</p> 
6月24日～7月3日	独立行政法人航空宇宙技術研究所 (NAL)	<p>ミュールアルファと入れ替わりでビーチクラフトB—65型機による実験が行われ、飛行中に乱気流を測定するシステムの研究開発と、飛行船試験のための上空の風観測などを行いました。風観測は年内にあと2回予定されています。</p> 
6月9日～6月24日	独立行政法人航空宇宙技術研究所 (NAL)	<p>国産ヘリコプターMH2000を改造した多目的実証実験機ミュールイブシロンを用いて、騒音の発生源を測定する実験、上空の風の観測、GPS (衛星による位置情報システム)を用いた飛行安全システムの試験など9項目に及ぶ試験・実験を行いました。MuPAL—ε が来場したのは平成12年以来3年ぶり。今回の実験結果を分析し、本年秋に再来場する予定です。</p> 